

第11回 木のグランドフェアの紹介

キーワード：イベント，ウッドサマーフェスティバル，研究成果，普及

木の良さを一般市民に広く普及する「木のグランドフェア」を，平成14年7月27日～8月18日の期間にわたって，林産試験場などを会場にして開催しました。この事業は，林産試験場と(社)北海道林産技術普及協会の共催で，市民に木と親しんでもらうための様々なイベントやコンクールなどの行事を平成4年度から毎年行っているものです。今回で11回を数えることから，小中学生の夏休み期間に開催される恒例行事として定着しており，23日間の開催期間における来場者数は約15,000人にのぼりました。

ここでは，木のグランドフェアで行われた各行事について紹介します。

ウッドサマーフェスティバル(7月27～28日)

ウッドサマーフェスティバルは，木のグランドフェアのオープニングセレモニー，かつメインイベントです。開会式を皮切りに，来場者プレゼント(各日先着100名様への林産試験場開発キノコの配布)，木っ端・ドンコロ・地場産品市，モノづくり体験イベント，見学・学習イベントを行いました。会場である林産試験場内は親子連れを中心ににぎわい，2日間で約5,000人の来場者が訪れました。

モノづくり体験イベントでは，トドマツ間伐材を用いた「バードテーブルづくり」，ベンチを作る「親子

日曜大工教室」，および上川南部森づくりセンターの協力による「ウッドコースターづくり」を行い，各々，120人(組)，48組，および400人を超える方々に木工工作を楽しんでもらいました。

見学・学習イベントでは，林産試験場の研究成果や業務内容を実演入りで解説する研究現場5か所を回る，「おもしろ研究見学ツアー」を実施しました(写真1)。2日間で約120人の参加があり，好評を得ることができました。

木を暮らしに活かす講演会(7月31日)

道北地域旭川地場産業振興センター(神楽4条6丁目)を会場に，講演会を開催しました(18:00～20:00)。齋藤勝次場長による主催者挨拶の後，「100才まで暮らす家づくり～新築とリフォームのノウハウ～」と題して西代企画設計(札幌市) 主宰 西代明子氏，および「木材はなぜ腐るの？」と題して林産試験場耐朽性能科 佐藤真由美科長が講演を行いました。雨模様となりましたが，約70人の市民が来場され，熱心に聴講していました(写真2)。講演後には，講師と来場者とのフリートーキングが行われました。

第10回北海道こども木工作品コンクール展

北海道内の小中学生を対象に，木工作品(個人，団体)とレリーフ作品(個人)のコンクールを実施しました。



写真1 おもしろ研究見学ツアー



写真2 木を暮らしに活かす講演会

15校(小学校8, 中学校7)から127点の応募がありました。審査委員会では, 木作品においては木の持ち味を, レリーフ作品ではアート彫刻板の特性を上手に生かした作品が評価されました。入賞作品の一部を写真で紹介します(写真3~5)。



写真3 木作品個人の部(小学校)
金賞・知事賞「タンチョウの子育て」
阿寒町立布伏内小学校2年 上中克航

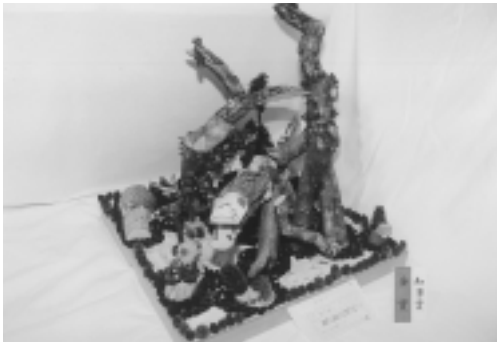


写真4 木作品団体の部(小学校)
金賞・知事賞「古代恐竜ワールド」
置戸町立勝山小学校2,3年生



写真5 レリーフ作品の部(中学校)
金賞「GoodnessなFine」
奥尻町立青苗中学校2年 工藤英起

る百寿大学の受講生を対象にした, アート彫刻板のレリーフ作品のコンクールです。2回目の開催となった今回は, 3公民館の4百寿大学から119点の応募がありました。入賞作品の一部を写真で紹介します(写真6)。

両コンクール展の全応募作品は, 木と暮らしの情報館に展示しており, 来場者の目を楽しませていました。



写真6 アート彫刻板作品コンクール
金賞「ひまわり」
神楽公民館神楽百寿大学 南江澄子

木作品コンクール表彰式(8月2日)

林産試験場の講堂にて, 北海道子ども木作品コンクールの金賞と北海道知事賞受賞者, およびアート彫刻板作品コンクールの金賞受賞者を招いた表彰式が行われました。出席した方々は, 受賞の喜びを再確認していました。

遊びの広場

林産試験場のログハウス「木路歩来」では, 木製遊具の充実を図り, 園児や小学生に木とのふれあいを楽しんでもらいました。木製のブロックやパズルに保護者も熱中する姿が多々見られました(写真7)。



写真7 木路歩来での様子

第2回アート彫刻板作品コンクール展

同コンクールは, 旭川市内の公民館で開催されてい

(林産試験場 普及課)